

■児童・生徒の学力の状況

「全国学力・学習状況調査」「RST」の結果から、下記のような傾向が見られた。

- 文章の基本的な構造（主語、修飾語、述語の組み立て）を正確に把握して、内容を理解する力が全体的に高い。
- 問題文と図表、グラフ等の資料を結び付けて内容を理解することが難しい児童が多い。
- 漢字や公式などを習得していても、日常生活において応用する力が弱い傾向にある。
- 文章全体の構成や展開を考え、筋道の通ったわかりやすい文章表現をすることが難しい様子が見られる。

■授業革新推進に向けた、指導上の課題
※「読み解く力」の育成を踏まえて

主体的で深い学びを推進していく上で、下記のような課題がある。

- 教師からの一方的な授業展開にならないように、教師はファシリテート役になる必要がある（一問一答）。
- ペア学習、グループ学習など、考えを交流し合う学習場面を設定する必要がある。
- 教科書の文章と資料を関連付けながら、情報を読み解く学習活動を取り入れる必要がある。
- 児童が計画・実行・振り返りを自ら行う自己調整学習を全校で実践する必要がある。

■学校経営方針より（学力向上に関わる内容から）

○全ての教科等における学力向上を支えている読み解く力を基盤として、児童自身が学び方を選択・決定・調整する力を育成する。

○学びのエリアで連携を図り、小中9年間の義務教育をつなぐ教育の実践を通して、学力向上を目指す。

○一人一台の端末を用いて、個別最適な学びを充実させる。

○「読むこと」「書くこと」など、言語活動を重視した授業を実施する。

○学習単元の導入段階で教員が内発的動機付けを行うことで、児童が意欲的に取り組むことができる授業を目指す。

○児童が主体となる授業づくりに努め、主体的・対話的で深い学びとなるような場面を設定し、授業展開の工夫を図る。

■授業革新推進に向けての具体的な方策

視点1	視点2	視点3
板橋授業スタンダードSの取組	一人一台端末の効果的な活用	読み解く力を基盤とした授業
○自分で学習の計画を立てて実行し、ふり返り、自分の学びを改善していくという流れを繰り返していく。 ○自分の学びを自己調整していく力を高めることで学力の定着・向上を目指す。 ○児童が選択、決定、調整する力を円滑に発揮するうえで、個に応じた声かけや支援をし行う。	○一人一台端末を活用して、理解度が高い児童には発展的な問題、理解が不十分な児童には前学年までの復習や基礎的な問題に取り組ませる。 ○スライド・オクリンクプラス等を使って分かったことを記録させることで、友達とやりとりをしながら主体的・対話的に学習する力を育成する。	○全国学力調査、RST、板二小RSテストの結果を基に、スタディアップタイムや授業の改善を図ることで、表やグラフを読み取る力や文章で記述する力を育てる。 ○読み解く力の基礎的読解力を基盤にして、自ら学ぶ力の育成を図る。 ○主たる教材は教科書とし、教科書分析することで、自分で教科書を読み込み内容を理解できる力を高める。

■いたばし学び支援プラン2025の実現に向けた具体的な取組

小中一貫教育の推進	個別最適な学び・協働的な学びの実現	カリキュラム・マネジメントの推進
○学びのエリアの4校で校内研究のテーマを揃えて、常に情報交換し合いながら研究を進めていく。 ○スタディアップタイムでは、読み解く力のうち、さらに強化させたい力を高める教材を作成し、児童に取り組ませる。 ○学校独自で作成した板二小RSテストを1年に2回実施し、結果の分析を行い、授業改善につなげる。	○すららドリルや学習サイトなどを用いて、個別最適化された学習に取り組む時間を増やす。 ○学びの自己調整に関するアンケートの結果や、各教科への理解度を基にして、個に応じた支援策を決める。 ○学びの手引きを活用し、個の学習で考えを深めるとともに、オクリンクプラスやGoogleアプリを用いて友達と意見を交流し、考えを広げる時間を確保する。	○ESD（持続可能な開発のための開発）の視点を踏まえ、ビオトープを活用した学習を充実させる。 ○環境教育等と各教科を連携させ、教科横断的な学習を実践する。 ○学校全体で指導計画を工夫し、異学年児童で交流し、学び合う時間を確保する。